

時津町は「家読」を推進しています

たまには テレビをけして

ようじむ ねん はるごう
幼児向け 2026年 春号



とぎつちょうりつとぎつとしょかん
発行：時津町立時津図書館



『いちごをたそう 1 から 5 まで
(いちばんはじめのかずのほん)』
赤木 かん子//著 田村 康二郎//監修
(埼玉福祉出版部)

ほんをひらくと、いちごのしゃしん。いちごをたしてみよう。いちごがひとつとひとつで、いちごはいくつ？

みんな大好きいちごをたして、かずをたのしくまなぼう！

「いちばんはじめのかずのえほん」の3巻。1巻2巻と合わせて読むのもおすすめです。

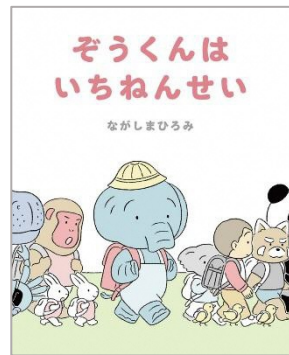
うちどく 家読とは

家族みんなで好きな本を読んで、読んだ本について話す。これが「うちどく (家読)」です。難しいルールは要りません。家族みんなでルールを決めてはじめてみましょう。

家族で同じ本を読みあったり、おとうさんやおかあさんに読み聞かせをしたりと楽しい時間を過ごしましょう。



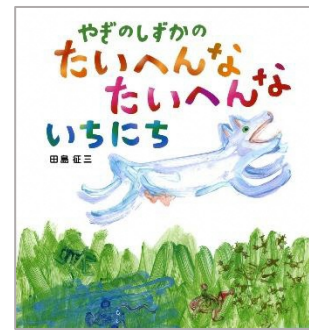
Illustrator ATSUKO



『ぞうくんはいちねんせい』
ながしま ひろみ//著 (アリス館)

ぞうくんは今日から小学1年生。でも、心配なことがたくさん。友達はできるかな。先生はこわいかな。勉強はむずかしいかな。でも、実際に学校で生活してみると…？

これから小学生になる人はもちろん、かつて1年生だったお兄ちゃんやお姉ちゃん、大人にも一緒に読んでほしい絵本です。



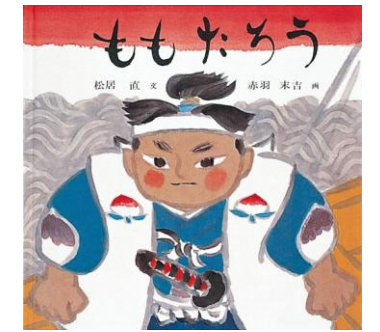
『やぎのしずかの
たいへんなたいへんないちにち』
田島 征三//作 (偕成社)

ふたごのあかちゃんにミルクをあげるために、やぎのしずかはくさをたくさん食べていました。だけど、はっぱの上でひるねをしていたバツタを怒らせて、大パニック。どんどん他の生き物たちも怒らせてしまうのです。作者が飼っていたやぎのしずかがモデルとなっているシリーズ絵本です。



『あおいことり』
たての ひろし//作 なかの 真実//絵
(世界文化社)

あおいことりは、こぶしのえだを探して、森から森にとびまわります。もうすぐつがいのめすがたまごをうむため、巣をつくらなければならないからです。あおいことりがおいをたどって行き着いたのは、素敵なねこのお家でした。繊細なタッチで描かれた、鮮やかでリアルな絵が読者を本の世界に引き込みます。



『ももたろう』
まつい だだし//ぶん
あかば すえきち//え (福音館書店)

おばあさんが川で拾ってきた大きな桃を切ってみたら、元気な男の子が出てきた。桃から生まれたのだからと、その子を「ももたろう」と名づけた。ももたろうはすくすくと育ち、立派な若者になった。そして、さとと犬とキジの家来をつれて、鬼が島に鬼退治に出かけた。

「むかしむかしあるところに」で始まる昔話の定番。



『きょうおかいものにとったらね』
マイケル ローゼン//文 ヘレン オクセンバリー//絵
当麻 ゆか//訳 (徳間書店)

「あかいニンジンくださいな」とやおやさんにいくと、やおやさんがくれたのは「あかいオウム」。「くろいぼうしをくださいな」とぼうしやさんにいくと、ぼうしやさんがくれたのは「くろいネコ」。なんだかおかしい買い物。洋服屋さんに行っても、パン屋さんに行っても、家具屋さんに行っても、目的のものは買えなかった。もうどうしていいかわからない。だけど家に帰ると…。奇想天外な買い物楽しい本。